

平成 21 年 6 月 3 日現在

研究種目：基盤研究（C）	
研究期間：2007～2008	
課題番号：19530193	
研究課題名（和文）	EUの東方拡大にともなう欧州自動車産業の生産分業再編に関する実証研究
研究課題名（英文）	Empirical study on the restructuring of production network based on the division of labor associated with the EU enlargement in the European automobile industry
研究代表者	
細矢 浩志 (HOSOYA HIROSHI)	
弘前大学・人文学部・准教授	
研究者番号：10229198	

研究成果の概要：本研究の目的は、EU東方拡大を契機に進展した大手自動車メーカーによる中東欧での製造拠点の形成が欧州の自動車生産システムに及ぼすインパクトを考察することにある。本研究により、第一に、自動車産業の躍進めざましい中東欧やトルコは対EU輸出拠点として重要な役割を担う存在となりつつあること、第二に、拡大EU周辺地域における自動車産業の新展開は、ロシアやトルコを巻き込んだ効率的な分業体制の構築を射程に収めた欧州生産ネットワークの変化を示すものとして注目に値することを明らかにした。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	800,000	240,000	1,040,000
2008年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,500,000	450,000	1,950,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・応用経済学

キーワード：産業発展論 生産ネットワーク 自動車産業 EU経済 多国籍企業論

1. 研究開始当初の背景

(1) 2004年、欧州連合(EU)はバルト・地中海諸国を含む中東欧10ヶ国の加盟を実現し、日米と並ぶ巨大な経済圏を形成した。EU25ヶ国体制の発足は、欧州の社会・経済にさまざまな変化をもたらしている。産業分野では、EUをはじめ日米の有力な多国籍企業が規模の経済を活用し競争力の強化を図るべく、中東欧への積極的な投資活動を繰り広げており、欧州の産業地図は大きく変わろうとしている。また、西欧の生産拠点の中東欧への移転による「産業の空洞化」やそれにとともなう雇用・労働にかかわる社会問題の深刻

化が懸念されるなど、欧州社会にさまざまな波紋を呼んでいる。

(2) こうした状況をふまえ、EU東方拡大に見られるような地域統合の進展やグローバル化の展開が欧州社会に及ぼす社会・経済的なインパクトについて検討する作業が進められようとしているが、欧州の産業・企業に焦点を定めた研究は必ずしも多いとは言えず、EUの産業・企業動向に内在した本格的な研究の進展が求められていた。

(3) 対中東欧直接投資の4割を占めるとい

われる製造業向け投資においてもっとも大きな比重を占めるのは、自動車産業向けの投資である。中東欧諸国の市場経済体制への移行が進展する 1990 年代当初より EU 大手自動車メーカーによる製造拠点構築が相次いだ結果、中東欧自動車産業は欧州自動車生産システムにおける不可欠な製造拠点としての重要性を増している。

(4) 研究代表者は、1990 年代以降の生産拠点配置動向を軸にした大手自動車多国籍企業の中東欧展開戦略の分析ならびにそれをふまえた欧州自動車生産分業ネットワークの実状把握に取り組んできた。本研究の着想は、これまでの研究の到達点に立脚している。また海外では、EU 自動車産業の再編動向に関する研究領域では、東方拡大を契機に広域化した生産空間の変貌ぶりを切り口にして地域間分業構造の特質を探ろうとする研究が進展しつつある。本研究で焦点に据える生産分業構造については、これら内外の研究成果を手がかりにその全体像の把握につとめてきたが、その過程で多くの課題が浮上した。すなわち、自動車多国籍企業の生産ネットワークへの中東欧拠点の統合によって、EU 既加盟諸国で機能していた従来の「中心」-「周辺」地域間分業関係は再編成されようとしているが、それはこれまでになく複雑な様相を呈している。ドイツ・フランスなど伝統的な自動車産業の集積地、スペイン・ポルトガルなどかつての「周辺」地域は、それぞれ新たな機能を担うことにより産業の衰退・縮小ではなく維持・発展の基調を保っているからである。こうした事実は、「中心」-「周辺」地域間分業に対する単純な比較優位性概念にもとづく理解に再検討を迫ると同時に、広域欧州における生産分業体制やネットワーク展開の本質についてより立ち入った考察が必要であることを示している。

(5) こうした問題意識にもとづき、本研究では欧州における自動車産業を対象に EU 東方拡大のインパクトを探ることにした。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、中東欧への自動車製造拠点の新設・拡大が欧州全体の自動車生産システムにどのようなインパクトをもたらしているかという観点から、現代欧州における自動車生産ネットワーク形成や域内分業構造の変化について検討を加えることにある。研究代表者によるこれまでの研究成果と研究課題に関する内外研究の到達点をふまえて、現地調査や統計データにもとづく実証的な分析を進展させることにより、EU 東方拡大を前後する時期に欧州自動車産業で

生じた構造変化の本質に迫ることを試みるものである。

(2) 目的を達成するために、以下のような研究テーマを設定する。第一に、欧州自動車産業の集積地域として「中・東欧」「スペイン・ポルトガル」「ドイツ・フランス等の中核地域」の 3 地域に注目し、各地域の展開動向や産業特性について実証的な分析を加えることによって基本的な特徴を整理・把握する。そのうえで、欧州分業体制におけるそれぞれの地域が担う主要な機能・役割などについて考察する。以上の検討をふまえ、第二に、広域欧州生産分業ネットワークの構造的な特質や展開のダイナミズムを明らかにし、新たに形成されつつある欧州自動車産業における生産分業構造の社会・経済的意義の解明に取り組む。

(3) 分析対象とする時期は、中東欧諸国の EU 加盟が実現した 2004 年を起点とし、その前後する時期とする。2007 年の「二次東方拡大」以降の変化をも見据えて研究を進める予定であるが、加盟国増という情勢変化によって分業構造のさらなる変化が予想される事情に鑑み、当該研究時点での検討課題を広域欧州分業体制における各地域の産業特性の解明に絞り、短期集中的に取り組む。

3. 研究の方法

(1) 個別研究課題と展開の順序

① 全体の研究目的を達成するために、個別的な研究課題を設け、それぞれについて成果をまとめつつ研究を遂行した。個別課題として設定したのは以下の 2 点である。

a) 地域間分業の実態把握とその機能分業上の意味の解明

……欧州の主要な自動車産業集積各地域における製造品目、部品メーカーの分布状況など生産事業の概要を調べ、欧州自動車生産分業体制の実状把握につとめる。

……各自動車集積地域の機能・役割などの対比をつうじて、その分業上の位置づけを明確にし、広域欧州生産ネットワークの基本的な性格を明らかにする。とくに東方拡大以前に「周辺」地域と位置づけられてきたスペイン・ポルトガル(旧ペリフェリ地域)と新たに加わった中東欧(新ペリフェリ地域)との対比を重視する。

b) 地域間分業体制再編の史的展開の分析

……新・旧ペリフェリ地域ならびに西欧コア地域(「中核」地域)の事

業再編動向の史的展開プロセスを整理し、中東欧への製造拠点の拡大が西欧既存拠点に与えた影響や欧州自動車産業にもたらしたインパクトについて検討する。

c) 以上の分析をふまえ、EU東方拡大にともなう欧州自動車産業の構造変化の意味するものを総括する。

②自動車産業を取り巻く現代的環境の変化を重視する立場から、分析に際して以下の視点を考慮した。

a) 電機・電子産業の生産分業体制との比較……中東欧向けの製造業投資において自動車部門と同様に比重の大きい電機・電子産業の分業構造との違いを明らかにすることで、自動車産業の特徴を鮮明にする。

b) アジアでの生産分業体制との対比……同様に地域間分業体制の形成が進みつつあるアジアの動向と対比することで、欧州における特徴を鮮明にする。

c) メーカーの環境戦略との関係……生産ネットワークの構築において各メーカーの環境戦略がどう織り込まれているかという視点を考慮し、分業体制の現代的特徴に切り込む。

③平成19年度は、主に調査・分析期間と位置づけ、資料・文献の収集と現地調査の実施などをつうじて研究の遂行に必要なデータの収集・整理・分析などに取り組む。平成20年度は、文献・史資料の補足を継続しつつ収集した調査データと文献の分析・解説をふまえ、考察を加えたうえで研究をとりまとめる。また、研究の成果は、一定の水準に達したものについて学術論文や学会報告として社会に還元する。

(2) 研究の方法

研究の方法として、以下のような作業ルーチンを設定し、それらを適宜組み合わせて研究を遂行した。

①文献・史資料の調査・収集と分析、統計データ解析

……具体的な事実に基づく検証を重視するため、できるだけ広範な領域に目配せした文献・史資料の調査・収集により、基礎的な史実関係の整理と統計データ解析を進める。

……資料解析に要する時間を考慮し、できるだけ平成19年度中に集中して基礎的な文献資料を整える。その際、国内史資料の整備水準の向上を意識的に追求する。

……EUの産業・競争政策に関連する公

文書類については、公式サイトからダウンロードする。個別企業・産業情報については、統計データをはじめ情報の多くが東京など大都市圏に集中するため国内調査旅行による資料渉猟を計画する。

……国内旅行先は、東北大学附属図書館(EU資料センター、主に欧州経済全般を調査)、同経済学部資料室(全国大学紀要・学術雑誌等)などとする。

……集めた情報は適宜データベース化し、その有効活用に努める。

②現地調査(海外旅行)

……「クルマの電子化」等の進展により、自動車部品取引の実状をマクロ貿易統計だけで把握するのは困難なため、主要地域の実態調査と海外研究状況の把握を目的とした現地調査を行なう。渡航前には調査項目の精査等入念に準備をする。調査予定地は中東欧諸国とスペインまたはポルトガルとする。中東欧諸国は、以前に調査経験のあるため、実施体制を早急に整えることができる。入念に事前準備を整え、効率的な史料収集と海外研究動向の把握に集中して取り組む。

……訪問先ではジェットロ現地事務所の協力を仰ぎつつ、現地企業の工場見学、ヒヤリング調査等に取り組む。また現地研究者の情報提供や助力を得て、最新の研究成果の吸収につとめる。必要に応じて、前回調査で不足した部分をカバーするために、欧州現地の再調査の可能性を考える。

③研究論文のとりまとめ、学会発表、研究報告書の作成

……一連の調査・分析を踏まえ、考察・検討を加えた後に研究の到達点を明らかにする。欧州生産分業体制の現代的特質の解明に一定の展望を与え、研究の総括を行なう。同時に、研究途上で浮上した諸問題やさらに検討すべき点など、今後の研究課題を示す。

……研究の成果は、個別研究課題に即して、適宜、研究論文としてとりまとめ、学術雑誌等で公表する。また、一定の水準に達したものについては、適宜、学会発表を計画する。

……研究最終年度末には、全体を総括し研究成果報告書を作成する。

4. 研究成果

(1) 研究実績

平成19年度は、「地域間分業の実態把握と

その機能分業上の意味の解明」を個別研究課題とし、欧州の主要な自動車産業集積各地域における製造品目、部品メーカーの分布状況等生産事業の概要を調べ、欧州自動車生産分業体制の実状把握につとめた。研究期間の制約(追加採択による研究開始時期のずれ込み)に鑑み、同年度を主に調査・分析期間と位置づけ、研究の遂行に必要なデータ・文献・資料等の収集と現地調査の実施に集中して取り組んだ。

平成20年度は、追加的な文献・史資料の収集・整理と解析作業を継続しつつ、新たに形成された広域欧州生産分業ネットワークの基本的な特徴と欧州自動車産業の構造変化の意義の解明を中心に研究を総括するとともに、研究成果の取りまとめと今後検討すべき課題の整理を行なった。実証的検討を重視する立場から、欧州自動車産業の現状把握にもとづく分析と総括につとめた。とくに自動車製造拠点新設の進む中東欧地域ならびに新産業集積地として台頭しつつあるトルコ、潜在的な市場の魅力が高まりつつあるロシアに注目し、各地域の産業動向を整理するとともに、欧州の地域間分業体制におけるそれぞれの主要な機能・役割などについて検討を加えた。

①国内史資料の整備水準の向上を意識的に追求しつつ研究課題に関する基礎的な文献・資料等の収集と解析に集中して取り組み、内外の研究動向と最新の研究成果を把握した。

②研究課題の遂行には欧州各地域の生産動向や製造拠点の再編について具体的な事実に基づく分析を加えることが欠かせないため、欧州現地調査を実施した。欧州連合主要機関の広報・資料室(ブリュッセル・フランクフルト等)を訪問し、現下EUの政策展開動向に関するデータ・資料の収集に取り組むとともに、ジェトロ(日本貿易振興機構)の現地センター・事務所(ブリュッセル、ミュンヘン)におけるブリーフィングの実施、現地自動車企業ならびに日系進出企業(フォルクスワーゲン、デンソー・チェコ等)の工場見学・ヒヤリング調査をつうじて、欧州の生産ネットワーク動向に関する実態把握と最新情報・研究成果の吸収につとめた。

③現地調査ならびに文献・データの解析をふまえ、EU拡大にともなって急成長したEU周辺地域における自動車産業の基本動向と生産分業体制の特徴について研究成果をとりまとめ、学術論文の公表ならびに学会発表を行なった。一連の研究成果では、第一に、東方拡大を契機に自動車産業

の飛躍的な発展が見られた中東欧やトルコでは、現地製造拠点は対EU輸出拠点として重要な役割を担う存在となりつつある、第二に、潜在的市場として有望視されるロシアでは外資による製造拠点の形成が本格化している、第三に、拡大EU周辺地域における自動車産業の新展開は、ロシアやトルコを巻き込んだ効率的な分業体制の構築を射程に収めた欧州生産ネットワークの変化を示すと同時に、ネットワーク化の加速と欧州自動車生産システム全体の着実な進化を示唆するものとして注目に値する、などの点を明らかにした。第四に、欧州自動車生産ネットワークにおける西欧生産拠点の位置づけの明確化の必要性など、欧州生産ネットワークの変容と自動車生産システムの進化にかんする研究を継続することの重要性を確認した。

(2) 研究成果の国内外における位置づけ

本研究成果の特色は以下の諸点にある。

第一に、欧州自動車生産分業構造の変容をめぐる諸問題に対して、近年の自動車産業を取り巻く著しい環境変化とのかかわりを重視し、実証的な分析にもとづく考察をもって切り込んだ点である。とくに、日本においてはこれまで西欧の自動車産業に較べて分析が手薄であった中東欧やトルコ、ロシアの新興自動車産業の実証分析に着手し一定の成果を得たことにより、地域事情の正確な把握にとどまらず、欧州の産業・生産システムの特質解明に向けた研究を一步前進させることができた。

第二に、地域間の生産分業構造の理解に新たな視点から光を当てた点である。現在進行中の広域欧州生産分業ネットワークの形成は、単純な垂直分業構造的な図式で把握できないため、それに替わる、もしくはそれを補強する概念の提示が求められている。より慎重かつ精緻な検討を要する概念提示は本研究の射程を超えるが、新旧拠点間の機能再編と空間的再配置の実態を実証的に明らかにすることにより、この問題を考える際に経済学がこれまで依拠してきた「比較優位性」概念をより豊かに把握する手がかりを獲得できたと考えられる。

(3) 今後の展望

主に「産業論」という見地から欧州の生産分業構造の特質を解明することを企図した本研究は、「多国籍企業論」など異なる視角からアプローチを試みる現代EU諸研究に対して有益な検討材料を提示し、欧州産業の展開動向に関する学際的な研究の発展に資する機会を提供することができた。しかしながら、本研究期間中は中東欧ならびに欧州東地域における自動車産業分析に集中したた

め、産業集積地のひとつとして注目したスペイン・ポルトガルについては、十分な検討を加えることができなかった。この点は反省すべき点である。広域欧州の生産分業再編の全体像を把握するには、同地域の分析が欠かせないため、今後はスペイン・ポルトガル等の拡大以前の旧ペリフェリ域とドイツ・フランス等の伝統的な産業中核地域の分析をさらに進める必要がある。

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2件)

- ① 細矢浩志, 「拡大EUペリフェリ域自動車産業の新展開」, 人文社会論叢(社会科学篇), 第21号, 95-113, 2009, 査読無
- ② 細矢浩志, 「変貌する中東欧自動車産業－FDI主導の産業再編と欧州生産ネットワークの形成－」, ロシア・ユーラシア経済, 第919号, 21-35, 2009, 査読無

[学会発表] (計 1件)

- ① 細矢浩志, 「欧州自動車産業の生産ネットワークの基本構造」, 東北経済学会, 2008年9月13日, 岩手大学

[図書] (計 1件)

- ① 高屋定美編 「EU域内の直接投資と生産ネットワークの変貌」, (ミネルヴァ書房, 『EUテキストブック: 経済編』(仮), 2009年所収予定)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0件)

○取得状況 (計 0件)

[その他]

6. 研究組織

(1) 研究代表者

細矢 浩志 (HOSOYA HIROSHI)

弘前大学・人文学部・准教授

研究者番号: 10229198